

薬学部

I	教育の水準	教育 22-2
II	質の向上度	教育 22-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 製薬企業の研究者、大学病院の薬剤部教員をそれぞれ連携講座、協力講座に配置しているほか、医学部及び歯学部と共同で医歯薬合同講義や医療系統合教育を実施するなど、教育体制の強化を図っている。
- 平成27年度にシステム創薬リサーチセンター（グリーンファルマ研究所）を設置し、国際的な痛み研究やグリーンファルマ研究を推進している。
- 平成23年度から実施している学内の大学改革活性化制度により、新たに教員（教授4名、准教授2名、助教2名）を採用しているほか、平成27年度にテニユアトラック制度を導入し、2名の助教を任期付教員として採用するなど、教育研究指導體制を強化している。
- 学内の教育の質向上支援プログラムにより、リーズ大学（英国）での2週間の教員研修や、大学が実施する英語による講義能力向上のための研修プログラムへの参加を通じて、英語の教育環境の整備を進めている。
- 学生や教職員への各種アンケート結果を踏まえ、入学者選抜試験制度や教育課程を定期的に見直すとともに、教育方法について改善を図り、国家試験合格率の向上につながっている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 薬学少人数ゼミナールや、医学部医学科、医学部保健学科、歯学部歯学科及び薬学部臨床薬学科の学生が、合同でチーム医療について理解を深める医療系統合教育科目等の授業を行うなど、将来にわたって学ぶ姿勢を持つアクティブ・ラーナーを育成している。
- 2年次に開講する「学術英語3 科学英語」では、薬学分野に特化した専門性の高い科学英語を提供し、国際的な創薬科学者、医療従事者としての素養を身に付けさせるほか、海外から招へいた教員による、国際化を踏まえた講義、セミナー等を行うなど、英語運用能力の向上に取り組んでいる。

以上の状況等及び薬学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 平成23年度から平成27年度における薬剤師国家試験の合格率は平成26年度を除き、90.3%から96.9%の間を推移しており、全国平均を上回っている。
- 創薬科学科（標準修業年限4年）では、平成22年度から平成26年度の標準修業年限内の卒業率は84.9%から96%の間を推移しており、臨床薬学科（標準修業年限6年）では、平成23年度から平成26年度の標準修業年限内の卒業率は87.5%から94.3%の間を推移している。
- 平成23年度から平成27年度における学会発表は、創薬科学科では国内学会が18件、国際学会が1件、臨床薬学科では国内学会が82件、国際学会が3件となっており、平成25年度から平成27年度において、学会や各種コンペティション等で12件受賞している。
- 学習の達成度、満足度に関するアンケート結果では、自分の専門分野に対する深い知識や関心、分析的に考察する能力等、14項目中6項目について、肯定的な回答の割合は90%を超えている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 就職率は、平成22年度の66.7%から平成26年度の100%となっており、平成24年度から平成26年度における卒業生の進路は、創薬科学科では89.9%が大学院修士課程に進学し、臨床薬学科では74.7%が病院及び薬局の薬剤師や製薬企業等に就職している。

以上の状況等及び薬学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 27 年度にシステム創薬リサーチセンター（グリーンファルマ研究所）を設置し、創薬を指向した社会的にニーズの高い、疾患及び廃棄物を少なくさせる有機合成法（グリーンケミストリー）等の研究を実施しており、研究内容の一部を講義として取り入れ、学生の研究指導に活かしている。
- 英語を用いた講義能力向上のための教員の海外研修や、海外から招へいした教員による英語での講義等、英語の教育環境を整備している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 学会発表について、平成 23 年度と平成 27 年度を比較すると、創薬科学科では 1 件から 6 件へ、臨床薬学科では 9 件から 21 件へそれぞれ増加している。
- 学会や各種コンペティション等における受賞数は、平成 25 年度の 2 件から平成 27 年度の 5 件へ増加している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。